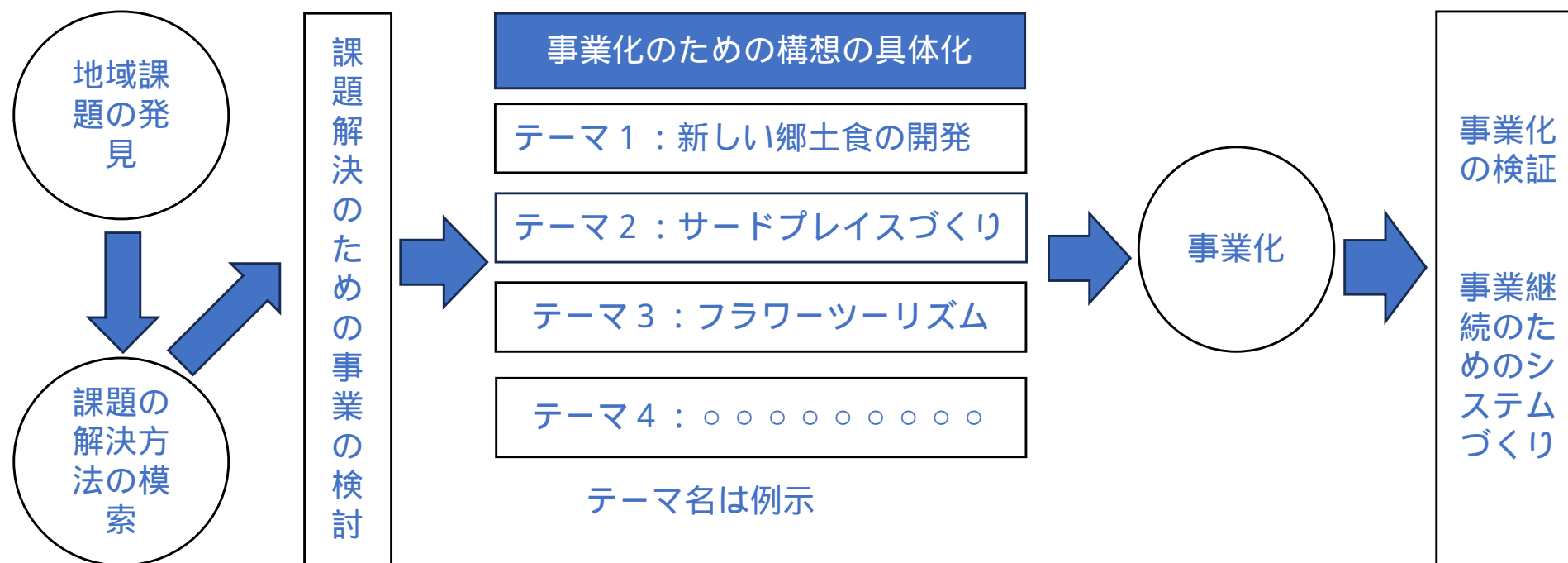


2025（令和7）年度 大学院プロジェクト研究【教員組織型】テーマ一覧

No.	研究科	専攻	研究テーマ	担当教員	研究の概要
1	地域デザイン 科学研究科	人間文化専攻	中・高生と連携して進める地域づくり ～三春町「みはる助っ人 中高生会議」 の実践～	初澤敏生	本プロジェクト研究は、中・高生の探究活動の支援を通して、地域づくりの実践を学ぶことを目的とする。 具体的には、三春町をフィールドに、田村高校・三春中学校・岩江中学校の生徒の探究活動を支援する。生徒たちはテーマごとにいくつかのグループを作り（例：新しい郷土食の開発と販売、高校生のためのサードプレイスづくり、フラワーツーリズムの振興など）、計画立案から具体的な事業化までを企画・実践する。ただし、事業化にあたっては生徒たちのみで行う場合のみならず、町内の事業者と連携して行う場合をも視野に入れる。その場合、事業者との連携についても実践を行う。院生はこれに伴走しながら、自らも地域づくりのプロセスや探究学習の指導方法を学んでいく。
2	地域デザイン 科学研究科	地域政策科学 専攻	実効性ある地区防災計画の策定と運用に 関する研究	（代表）今西一男 （分担）西田奈保子	頻発する各種災害に対し、「共助」により地域の防災力を高めようとするとりくみが各地で行われている。災害が起きた時にどう対応するか。その備えをまとめておくものが、災害対策基本法に基づく「地区防災計画」制度である。これにより地域のとりくみを市町村が把握し、公民連携による防災力の向上に資すること、地域住民間における防災意識の向上や災害情報の共有、防災の基盤となる地域コミュニティの構築につなげることなど、効果が期待される。 しかし、実際には策定件数は増加せず、策定に至っても地域での普及や平素からの備えに結びついていないという指摘を耳にする。そこで本研究では、例えば 計画策定のあり方、自治体の役割、地域コミュニティへの理解そのもの、等々を論点としてこの計画に実効性を持たせるための政策提案を行うことを目的とする。
3	地域デザイン 科学研究科	経済経営専攻	地域経済の現代的課題	末吉健治	基幹産業の弱体化、担い手不足、新しい経済環境への不適應など、地域経済が克服しなければならぬ課題は山積しているが、課題を克服するためには地域経済の現状を正確に把握する必要がある。本プロジェクト研究では、現地調査のための準備として、まず、経済学の諸理論を文献によって学習する。また、受講生とともに地域経済が抱える諸課題の本質を見極めるための視点について整理する。
4	共生システム 理工学研究科	共生システム 理工学専攻	AI・IoT活用研究 ～マイコンとICTを活用したさまざまな 課題解決～	（代表）高橋 隆行 （分担）物理メカト ロニクスコース教員	本プロジェクト研究では、研究や製造、教育などのさまざまな現場における業務の高度化・効率化を目指したAI・IoT活用のあり方について実践的な研究を行う。センサーを用いた外部環境情報の取込、シミュレーションによるデータ生成と解析、機械学習アルゴリズムによる推定、および判断に基づくアウトプットなどを構築するスキルを身につけながら、現場に活かすためのアイデアを考え、実践的に検証する。 プロジェクト研究（1セメ）ではAI・IoTシステム構築に関する集中講義と研究現場での活用事例の視察を通して、どのような活用対象に取り組みかを考える。プロジェクト研究（2セメ）では対象に適したシステムを構築し、プロジェクト研究（3セメ）ではそのシステムを実際に現場で適用して実践的に効果を検証していく。
5	共生システム 理工学研究科	環境放射能学 専攻	環境放射能に関連する地域課題の発掘と 講究	脇山 義史	福島原発事故を経験した福島地域では各方面での復興事業が進む一方、環境放射能に関連する多種多様な個別課題が残っている。本プロジェクトでは、履修者自身が対象とする課題を設定し、地域の方との対話をもとにデータの取得と説明を行うことで、実践的に地域課題に取り組む。環境放射能を専門とする教員による助言の下、以下の5段階で研究を進める。 環境放射能に関連する地域課題の設定。 地域の方との対話によりデータのニーズを把握。 放射線測定機器等によるデータ・情報の取得。 GISなどの専門的ソフトウェアを用いた結果の解析・可視化。 定量的なデータに基づく課題解決・状況改善の方法を考察。
6	食農科学研究科	食農科学専攻	浜通りにおける地域ビジネスの創生	（代表）河野 恵伸 （分担）農業経営科 学コース教員	東日本大震災・原子力災害の発生から十数年が経過したが、福島県浜通り地域は現在も復興・再生の途上にある。原発周辺市町村のみならず、浜通り地域全体でみても極端な人口減少や高齢化が進展しており、地域資源を生かした新たな地域ビジネス創生による復興・再生が強く求められている。そこで、本プロジェクト研究では、「プロジェクト研究 ～ 」として、農業経済・政策分析論、フードビジネス分析論、地域農業マネジメント論から2科目を選択して学び、実践的なフィールドサイエンスの知識や技能を身につける。その上で、浜通り地域で実施するフィールドワークの中で地域課題の解決に取り組み、農林水産業を基礎とする地域ビジネスモデルを企画立案し、実行可能性を検証する。

中・高生と連携して進める地域づくり —三春町「みはる助っ人 中高生会議」の実践—

本プロジェクトは、中・高生の探究活動の支援を通して、地域づくりの実践を学ぶことを目的とする。具体的には、三春町をフィールドに、田村高校・三春中学校・岩江中学校の生徒を支援する。生徒たちはテーマごとにいくつかのグループを作り、計画立案から具体的な事業化までを企画・実践する。院生はこれに伴走しながら、自らも地域づくりのプロセスと探究学習の指導方法を学んでいく。



実効性ある地区防災計画の策定と運用に関する研究

頻発する各種災害に対し、「共助」により地域の防災力を高めようとするとりくみが各地で行われている。災害が起きた時にどう対応するか。その備えをまとめておくものが、災害対策基本法に基づく「地区防災計画」制度である。これにより地域のとりくみを市町村が把握し、公民連携による防災力の向上に資すること、地域住民間における防災意識の向上や災害情報の共有、防災の基盤となる地域コミュニティの構築につなげることなど、効果が期待される。

しかし、実際には策定件数は増加せず、策定に至っても地域での普及や平素からの備えに結びついていないという指摘を耳にする。そこで本研究では、例えば 計画策定のあり方、自治体の役割、地域コミュニティへの理解そのものの、等々を論点としてこの計画に実効性を持たせるための政策提案を行うことを目的とする。

本研究のフローと地区防災計画策定のイメージ：プロジェクト研究Ⅰ～Ⅲを継続して学修することでプロジェクト思考を身に着ける

プロジェクト研究Ⅰ（第1 Semester）

テーマ：地区防災計画の基本的理解

主な研究課題：基礎的な内容の学修

- ・地区防災計画に関する制度学修
- ・地区防災計画の策定状況の把握
- ・文献や資料を通じた論点の理解



プロジェクト研究Ⅱ（第2 Semester）

テーマ：問題設定と調査

主な研究課題：問いを立て、調べる

- ・自治体担当者や住民を対象とした調査による問題の発見から深掘りへ
- ・調査結果に基づく考察、討論



プロジェクト研究Ⅲ（第3 Semester）

テーマ：実効性ある計画の提案

主な研究課題：Ⅰ・Ⅱをふまえた提案

- ・根拠に基づく提案づくりの訓練
- ・考えた提案の効果検討
- ・まとめとなるレポート作成、プレゼン



住民による問題発見のまち歩き



地区の問題をまとめるワークショップ



策定された地区防災計画の一部

（事例：二本松市竹田地区・2023年度策定）

地域経済の現代的課題

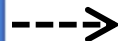
基幹産業の弱体化、担い手不足、新しい経済環境への不適応など、地域経済が克服しなければならない課題は山積しているが、課題を克服するためには地域経済の現状を正確に把握する必要がある。本プロジェクト研究では、現地調査のための準備として、まず、経済学の諸理論を文献によって学習する。また、受講生とともに地域経済が抱える諸課題の本質を見極めるための視点について整理する。

地域経済の課題

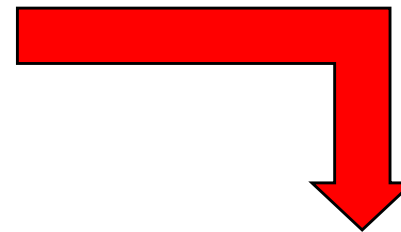
基幹産業の弱体化
担い手不足
付加価値の低下
⋮



経済学
の
諸
理
論



課題
の
本
質



プロジェクト研究

プロジェクト研究、

課題先進地における
フィールドワーク

課題克服の処方箋

経済地理学特殊研究、地域政策論特殊研究Ⅰ
地域経済論特殊研究、特講（地域デザイン）
の4科目のうち、最低2科目の履修を推奨

AI・IoT活用研究

～マイコンとICTを活用したさまざまな課題解決～

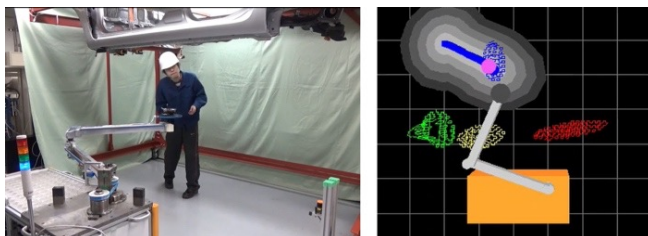
本プロジェクト研究では、研究や製造、教育などのさまざまな現場における業務の高度化・効率化を目指したAI・IoT活用のあり方について実践的な研究を行います。カメラや測定器などのセンサーを用いた外部環境情報の取込、シミュレーションによるデータ生成・解析、機械学習アルゴリズムによる推定、および判断に基づくアウトプットなどを構築するスキルを身につけながら、現場に活かすためのアイデアを考え検証していくことで、あなたの研究の幅を広げてみませんか？

1セメではAI・IoTシステム構築に関する集中講義と研究現場での活用事例の視察を通して、どのような活用対象に取り組むかを考え、2セメではその対象に適したシステムを構築します。3セメではそのシステムを実際に現場で活用して、効果の検証を実践的にを行います。

1セメ：基本スキルの修得と目標の設定



AI・IoTシステム構築特論（6月集中講義）

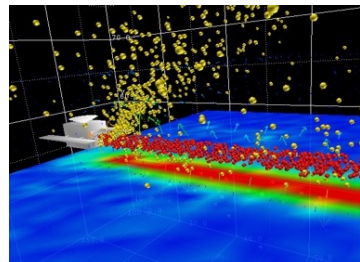


現場視察の例（作業者動作の測定とモデル化）

2セメ：システムの構築

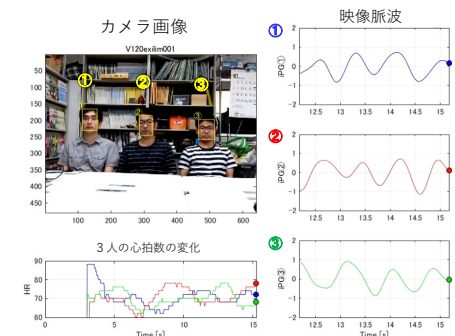


測定システム構築の例（顔画像による心拍計測）



解析例（粒子の流れシミュレーション）

3セメ：システムの検証



検証の例（体調管理の複数人同時測定）



検証の例（アスリートの動作測定）

環境放射能に関連する地域課題の発掘と講究

概要：福島原発事故を経験した福島地域では各方面での復興事業が進む一方、環境放射能に関連する多種多様な個別課題が残っている。本プロジェクトでは、履修者自身が対象とする課題を設定し、地域の方との対話をもとにデータの取得と説明を行うことで、実践的に地域課題に取り組む。環境放射能を専門とする教員による助言の下、以下の5段階で研究を進める。環境放射能に関連する地域課題の設定。地域の方との対話によりデータのニーズを把握。放射線測定機器等によるデータ・情報の取得。GISなどの専門的ソフトウェアを用いた結果の解析・可視化。定量的なデータに基づく課題解決・状況改善の方法を考察。

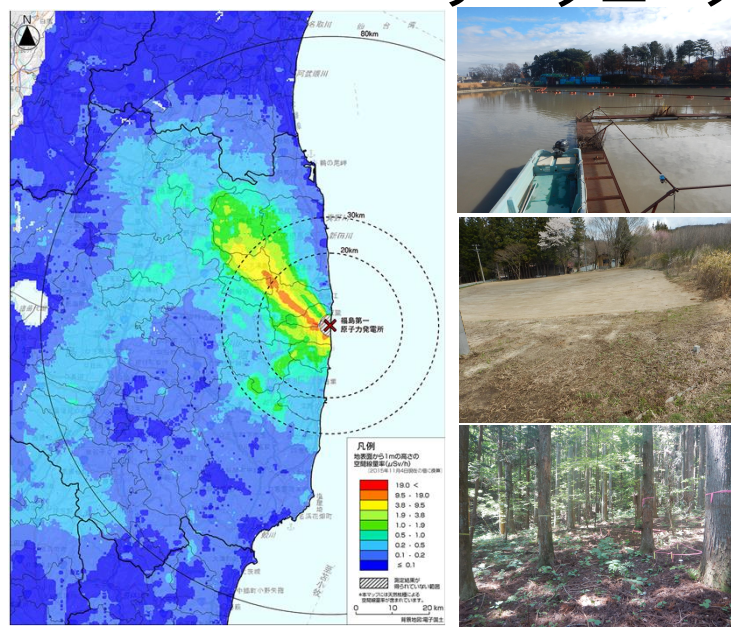
課題の設定

データ取得

改善策の考察

データニーズ発掘

報告・説明



浜通りにおける地域ビジネスの創生

福島県浜通り地域は現在も復興・再生の途上にあり、極端な人口減少や高齢化が進展しており、地域資源を生かした新たな地域ビジネス創生による地域の復興・再生が強く求められている。

本プロジェクト研究では、「プロジェクト研究 ～ 」として、農業経済・政策分析論、フードビジネス分析論、地域農業マネジメント論から2科目を選択して学び、実践的なフィールドサイエンスの知識や技能を身につける。その上で、浜通り地域で実施するフィールドワークの中で地域課題の解決に取り組み、農林水産業を基礎とする新たな地域ビジネスモデルを企画立案し、実行可能性を検証する。

【新たな地域ビジネスモデル】
地域ビジネスモデルの企画立案、実行可能性の検証



【フィールドワーク】
浜通り地域で実施するフィールドワークの中で、
地域課題を発見し、その解決に取り組む

【フードビジネス分析論】
・フードシステムにかかわる各ビジネスを分析するための分析視角や分析方法
・そこから派生する社会問題を分析するための分析視角や分析手法

【農業経済・政策分析論】
・農業経済や農業政策にかかわる問題を分析するための分析視角や分析手法

【地域農業マネジメント論】
・多様な農業経営で構成される地域農業の課題の抽出
・それらの課題を解決するためのマネジメント機能に関する分析視角や分析手法